

エンジン内残留ゴミによるターボ ベアリング焼付き注意“

代注4

リビルドエンジン又は、修理したエンジンにターボを取付けた時に、ジャーナル部分が、下記の写真のような、深いかじり傷によって破損する不具合が多発しています。原因はエンジン内部の残留ゴミ(研削粉、残留ゴミ等)によるもので、判別の方法及び対処方法について連絡します。

保証の対象とはなりません充分注意下さい。

シャフトジャーナル部のかじり傷写真



ジャーナル部分の傷の特徴

- 硬い異物による深い傷が入る
- シャフトが熱変色を起していない

不具合発生状況の特徴

- 不具合の兆候は取付直後ではなく、2～3ヶ月以降で発生することが多い。(比較的硬いゴミで徐々に傷が深くなって行く)
- ジャーナル部分は熱変色は無く、深い傷が入る。(潤滑は十分に行われているが、硬いゴミによる傷は深い)
- 発生間隔はゴミ減少と共に長くなるが、エンジン内部のゴミの洗浄を行わないと再発する可能性は高い。(オイルパン内にゴミが残っていることがある)

対処方法(再発を繰り返します必ず実施下さい)

- エンジン内部(オイル循環経路及びオイルパン、オイルフィルター)の残留ゴミを除去する為に
 オイルパンを取り外しゴミを完全に除去、洗浄する。
 オイル循環ラインをオイルを何回も取替えて運転洗浄する。(正常なターボを付けたままで行うと破損させる可能性があるので注意)
 新しいオイルフィルターに取替える。

